

『閃け!棋士に挑むコンピュータ』刊行記念 サイエンス・カフェ&サイン会

# 「人は閃く。では、コンピュータは!?!」

【日 時】2011年3月7日(月) 19:00~20:30 【定 員】50名程度

【場 所】紀伊國屋サザンシアター ホワイエ 【参加費】無料(申し込み不要)

渋谷区千駄ヶ谷5-24-2 タカシマヤタイムスクエア  
紀伊國屋書店新宿南店7F

※当日は直接会場にお越し下さい

※サイエンス・カフェ終了後20:15頃より、伊藤毅志先生と田中徹さん、難波美帆さんのサイン会を実施いたします。

## — サイエンス・カフェ「人は閃く!では、コンピュータは!?!」 —

サイエンス・カフェとは、くつろいだ雰囲気、研究者とみなさんが科学について対話するイベントです。今回は、『閃け!棋士に挑むコンピュータ』(梧桐書院刊)の出版を記念して、電気通信大学の伊藤毅志先生をお招きします。伊藤氏は、人間の知的活動、中でも「閃き」や「直観」の研究に取り組んできました。パッと見て状況を把握する「直観」と、論理的推論によって先を読むプロの将棋棋士は、人間の知的活動をモデル化するのに最適で、伊藤氏は将棋を題材に、これを研究してきました。

2010年10月、情報処理学会50周年記念イベントとして企画された、清水市代女流王将(当時)対コンピュータ将棋の戦い、このコンピュータ将棋システム「あから2010」に、「合議制」と言われる新しい仕組みを導入することを提案したのが伊藤氏です。これは、最強と言われる4ソフトがそれぞれに計算した良い手を出しあい、多数決で次の一手を決めるシステムです。

プロ棋士は局面をサッと見て、すぐに次の一手が思い浮かぶといえます。伊藤氏はこのメカニズムを認知科学の分野から読み解き、ある局面の状況を「時間的チャンク(塊)」で記憶するという概念で説明を試みています。

プロ棋士の脳の働きを題材にした研究は、今脳科学の分野でも進んでおり、理化学研究所では棋士が「閃めいた」ときの脳の様子を調べ、米国の科学誌「サイエンス」で報告しています。伊藤氏はこれらの研究にも協力しています。

「あから」は清水氏との対局で、「たとえ駒損になっても形勢がよい、という手を選びました。伊藤氏は、これを「コンピュータ将棋の計算力が、プロの直観力に近づいた」とみています。人間の直観に肉薄してきたコンピュータ。では、「コンピュータらしさ、人間らしさ」とは何なのでしょう。コンピュータが「考える」とはどういうことなのでしょう。伊藤氏をお招きし、研究成果の最前線をみなさんと語り合ってください。



1,680円(税込)  
好評発売中!

## ■ゲスト 「あから2010」生みの親 伊藤毅志 電気通信大学助教



### 伊藤毅志(いとう・たけし)

1964年、名古屋市出身。北海道大学文学部行動科学科卒、名古屋大大学院工学研究科博士課程を修了し、電気通信大電気通信学部情報工学科助手(のち助教)。2010年10月、清水市代女流王将と戦ったコンピュータ将棋システム「あから2010」で採用された最強ソフト「合議制」の生みの親。電通大「エンターテイメントと認知科学研究ステーション」の代表。コンピュータ将棋協会理事。北大時代は将棋部に所属しアマ四段。

## ■ファシリテーター(司会進行)



### 田中徹(たなか・てつ)

1973年、北海道生まれ。北海道新聞記者。2006年、新聞労連ジャーナリスト大賞優秀賞を受賞した連載企画「あなた見られてます——監視と安全のはざまで」に取材メンバーとして関わり、テクノロジーが生活や社会に及ぼす影響に関心を持つ。情報技術による人間・社会の変容や、少し先の未来を描いていきたいと考え、日々取材活動が続ける。



### 難波美帆(なんば・みほ)

1971年、徳島県生まれ。早稲田大学政治学研究科准教授。サイエンス・ライター。講談社の小説編集者を経て科学・医療を中心にフリーランスの編集・記者になる。2005年、北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット准教授。2010年4月より現職。科学・医療の分野で人々を幸せにするコミュニケーションを追求すべく、研究・取材などの活動を重ねている。

【主 催】紀伊國屋書店・梧桐書院 【お問い合わせ】梧桐書院 tel.03-5825-3620